

5人の体験、各地で上映

DV脱出 勇気の肉声

配偶者の暴力から脱出し、立ち直ろうとする「DVサバイバー」。その女性たちが体験を語った映像が各地で上映されている。「女性が暴力から逃げ出す勇気を持てるように」。大阪市の女性が被害者を保護するシェルターに通い、2年半かけて撮影した作品だ。



エンドウノリコさん

映像では5人の女性がカメラに向けて語りかける。

70歳の女性は3月に協議離婚した。元夫は自分の不倫が発覚した11年前から都合が悪くなる暴力をふるうようになった。女性の足を何度も踏みつけ、首を絞めた。70歳を前に逃げた。取材が進むにつれ、「本当は見たい」と顔を映すことにも同意した。新生活に向けた意気込みだった。「あと10年、80までの間をね、本当に有意義に過ごしたい」と語る。

「ごめんなさい、許してください」と言わないとこの場



夫に依存しない生き方を選べたこと

「夫に依存しない生き方を選べた すごくよかった」

面は終わらないと思うと、途中で言っちゃうんだね」。60代の女性は当時の心境を語る。

子ども3人と逃げ、生活保護を受けて暮らす40代の女性は「夫に依存しない生き方を選べたってこと、すごくよかった」。

取材、撮影、編集を担ったのは大阪市淀川区の市民団体「ビデオ工房AKAME」の代表、エンドウノリコさん。性暴力や介護など女性を取り巻く問題をテーマに映像をつくり、今回は8作目。近畿地方のシェルターに通い、電話相談などを手伝った。被害者や職員と信頼関係を深め、5月にDVDを完成させた。

これまで関西のシェルターなど4カ所での上映。今月26、27日にはDV被害者や支援者らが盛岡市に集まる「全国シェルターシンポジウム」で上映予定だ。DVD「自分をとりもどすDVサバイバーからのメッセージ」は34分(税込み3150円)。DV防止法の内容や脱出時の注意点も盛り込んでいる。問い合わせはAKAME(06・4805・0234)へ。

(花房喜卓子)

夫からDVを受けていた40代女性が語る場面
|| エンドウノリコさん提供